

渡辺喜美著「民主党政治の正体」角川 SSC 新書、

角川 SS コミュニケーションズ、2010年1月24日刊を読む

路網整備で日本の森林再生を - 風(林業)が吹けば桶屋(水資源)が儲かる -

1. 食料の安全保障には、農地と水の確保が不可欠です。日本においては、水が非常に豊富で貴重な資源として、これからそのお宝ぶりが発揮されるようになるかと思えます。
2. 水を確保するためには、まず森林整備。とはいえ、ここにも成長戦略をあてはめることができます。日本は世界有数の森林国であり、国土の 66 % が森林。森林蓄積量は 44 億立方メートルに達しています。おそらく、これは日本の歴史上最大の規模で、フィンランドに次ぐ世界第 2 位の森林占有率です。木材使用量は年間 8000 万立方メートル。そして、育つ森林は 8800 万立方メートル。ほぼ均衡しています。
3. ところが、国産材シェアを見てみると 24 %、育つ森林があるのに外材は 76 % と高く、このことから育つ森林は増え続け、蓄積量がさらに増加し続ける構造になっているのです。
4. 一方、世界の森林は減少、劣化が著しく進んでいます。毎年、730 万ヘクタールが減少、5 年間で日本の国土面積に相当する森林が農地転用、焼畑、薪炭材の過剰採集、森林火災、違法伐採などによって消失しています。このことで、地球温暖化の加速、生物多様性の損失、というマイナス面を生んでいます。
5. では、なぜ日本の木材が流通しないのか、ということですが、日本の山は間伐が進まず、若木が育ちにくなっているのがその理由です。間伐をしても 7 ~ 8 割が山中に切り捨てられたままなのです。
6. 間伐は本来、若木が育ち、CO<sub>2</sub> を吸収するものですが、実際、切り捨て間伐が行われれば木材は腐り、メタンガスを排出し、CO<sub>2</sub> の増加が起こってしまうというデメリットがあります。結局、木材価格がピーク時の 3 割くらいまで下落していることが、こうした事態の背景にあるわけですが、日本では山についても中央集権型の統制システムが弊害となり、肝心要の生産性向上の努力がなされていないのです。
7. たとえば、林業の基盤・整備の状況を見ても、日本は路網整備が著しく遅れています。コンクリートで固めた立派なスーパー林道みたいなものはあっても、路網全体は 1 ヘクタールにつきわずか 17 メートルしかない。対して、オーストラリアでは 87 メートル、ドイツでは 118 メートルもあります。そのうち本当に必要な作業道というのは、たとえばパワーシャベルでかき分けかき分け進んでいくようなものでも十分なんです、日本にはわずか 1 ヘクタールあたり 4 メートルしか

ありません。対してオーストラリアは 42 メートル、ドイツは 64 メートルもあります。こうしたインフラが未整備であるところに、日本の林業の生産性が向上しない原因があるのです。

- 8 . 結局、コストの高い林道を作り、これが役人の天下りポストと絡んで、政官業の癒着構造になっている。談合事件が発覚した独立行政法人の「緑資源機構」なんかはその典型例で、本来必要な作業道の整備ではなく、税金がぶ飲み立派な林道整備にお金が費やされてきた結果、このようなことになっている。
- 9 . だから、その力を発揮しなければならない高性能な林業機械が全国でたった 3500 台しか投入されておらず、しかも稼働率も高くない。こんな状況だから、山がどんどん荒れていく。その傍ら、パワーシャベルを扱う建設業なんかは、機材が過剰状態であり、稼働していないというミスマッチが起こっています。
- 10 . 林業、建設業が融合すれば、林業の熟練経験と建設業の路網整備力、機械力、測量技術などとのマッチングによって山の劣化が食い止められ、間伐材の搬出を伴って国産材の利用促進につながっていくことが考えられるわけです。
- 11 . 路網整備による林業の自立化が行われれば、森林資源が原木から製材、合板、チップ、製紙、ボード、燃料、エネルギーなど、無駄のない利用につながり、森林資源のマテリアルとエネルギーの両面で利用促進に結びつくのです。まさに、森林資源が 100 % 利用されることにつながり、こうした循環を作り上げることで森林が本来の機能を取り戻し、山の木が水を貯めるという機能を発揮するようになるわけです。
- 12 . 今は、山に降った雨は、滑り台に乗ったようにそのまま川に流れていってしまいます。つまり、山の保水力が著しく低減しているという現象が、いたるところで見られているんですね。だから、ちょっと雨が降ると洪水になったりする。そして、洪水予防のためにさらにコンクリートで公共事業をやらざるをえないという悪循環に陥っています。やはり水というのは、世界の人口増加と食料生産のミスマッチを考えれば、貴重な資源と位置づけられるわけですから、水を蓄える山の整備、これが極めて大事なことになるわけです。
- 13 . 一方、川下のほうにも水ビジネスのチャンスがあります。世界では今、水不足が深刻化している状況を背景として、水メジャーと言われる人たちが水ビジネスをグローバルに展開しています。
- 14 . 日本では、さまざまなインフラ産業の中で、水道インフラの管理レベルが高いと言われていています。漏水率が低く、世界に冠たる上水道管理システムを持っていながら、結局これを役所が取り仕切っていることで、鎖国状態にある。ヨーロッパ勢がアジアで水ビジネスを大々的に展開している一方で、和製水メジャーが育たない事情が、ここにあるのです。
- 15 . まさに、こうした公営事業を開放する、民営化をしていくことが国家戦略として考えていかなければならないことです。

16．たとえば、大都市水道局を民営化すれば、民間水道ビジネスとして成り立っていきます。中小規模以下に官民入札を義務づけると、小規模水道局を吸収統合しながら、和製水メジャーとなって、海外進出が可能になってきます。アジア、中東、アフリカ地域への参入支援を行えば、ヨーロッパ勢に負けない競争力をつけていくことが可能になっていくのです。

17．世界の水ビジネスは、2025年に110兆円規模とも言われます。ちなみに、日本勢は海水淡水化の膜分野では高い技術を持ち、世界の7割のシェアをすでに持っています。

P171 ~ 176

#### [コメント]

路網整備と日本の森林再生についての極めてわかりやすい説明で、さすが渡辺喜美先生と言える。知っている人は知っているが、なぜなかなか実行に移されない。放置すれば、折角の日本の森林が壊滅状態になることも明らか。どうにかしたい。

- 2010年5月12日 林明夫記 -